
心霊何でも屋！

ケースケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心霊何でも屋！

【Nコード】

N2202L

【作者名】

ケースケ

【あらすじ】

俺は角峰啓太。幽霊が視える以外は普通の男子だ。

「普通の男子って（＊ m ＊）ププッ、あたしから言い直すなら、普通のいじめられっこ男子にしか見えないけど。」

あっ、さなえさん！勝手に、あらすじに出て来ないでしょ！？

プロローグ（前書き）

一生懸命頑張りました。
見てください！

プロローグ

俺は今、一生懸命に授業を聞いていた。なのに、

「やあ〜さ〜、ほんとに学校つてのも、勉強ばつかでさあ、何も楽しいことつてないよな。」空中にふわふわ浮かんでいる、浴衣の女性がそう呟いた。

久しぶりに学校に登校して、久しぶりに授業を受けた。

あっ、どうも俺の名前は啓太。かどみねけいた角峰啓太。この春宮西高等学校はるみやにしこうとうがっこうに通う高1の男子だ。まあ俺はいわゆるいじめられっこだ。その、いじめっここからいつも守ってくれているのが、

さつきも出てきた、女性の幽霊「さなえ」さん。

彼女は、決して僕の守護霊ではない。なぜなら、俺の守護霊は、こてんぱんにさなえさんにやられて、もう守護霊やめるとか言い出して、俺の守護霊はどっか家出してしまった。それつきりホントなら憑依するはずが、俺が凄惨い情けないからか、あたしがお前を守ってやると、さなえさんが言い出して、それ以来さなえさんは俺の側にくっついたまんまだ。

「さなえさん。静かにしてくれよ。久しぶりの授業何だから、ちやんと聞いとかないと、俺授業に遅れちゃうんだから、頼むよ。」

「ハイハイ、わかっています。そんなの勉強して なになになるんだか。」

本当にわかってんのかもつ。

プロローグ(後書き)

とにかかくにも、めっちゃくちゃ緊張しました！

「、、」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2202l/>

心霊何でも屋！

2010年10月12日00時34分発行